

事例報告シート①

報告者氏名：

記入日：西暦□年△月○日

主題	心不全急性増悪患者に検査データを説明し、心不全の理解向上と増悪予防を支援する。																						
プロフィール	①性別：男 ②年齢：47歳 ③家族構成：独居 ④職業：会社員 ④その他特記事項 食事・運動：自立。機会飲酒。喫煙習慣：なし。																						
原疾患 既往歴	拡張型心筋症（2010年診断） 高血圧 慢性腎臓病	治療状況	■ 高血圧 指摘後 不明 年 □ 糖尿病 指摘後 年 □ 脂質異常症 指摘後 年 □ 高尿酸血症 指摘後 年 □ 肝機能異常 指摘後 年 ■ 慢性腎臓病 指摘後 不明																				
相談内容、 処方箋・診療情 報・介護状況か らみた課題	心臓超音波検査では何がわかりますか。 水分はどれくらい取ればいいのですか。	生活習慣・ 環境に関わ る特記事項																					
指導内容 (課題・計画)	心機能を経過観察することで心不全急性増悪所見の早期発見を行うことを患者に説明する。心不全の状態などについて、検査データとの関連で、患者の気づきを支援する。																						
主なエピソード (臨床経過と関 わり)	拡張型心筋症で外来通院中である。自覚症状は明らかではない。3か月ごとに心臓超音波検査を施行している。身長162 cm、体重は当初62 kg、BMI 23.6 kg/m ² 。心臓超音波検査施行時に検査の意義について説明。今回の心臓超音波検査では前回と著変はなく、心電図検査では不整脈も認められず、血液データはCr 1.7 mg/dL, eGFR 36 mL/分/1.73 m ² 、BNP 1,308 pg/mLと前回と変化がないことを主治医に報告した。患者から、どれくらいの食事量と飲水量が適切かを質問されたので、主治医に連絡した。																						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2020年4月</th> <th>2020年7月</th> <th>2020年10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LVDd (mm)</td> <td>72</td> <td>70</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>LVDs (mm)</td> <td>60</td> <td>58</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>EF (%)</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>体重 (kg)</td> <td>62</td> <td>59</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>		2020年4月	2020年7月	2020年10月	LVDd (mm)	72	70	70	LVDs (mm)	60	58	57	EF (%)	28	30	30	体重 (kg)	62	59	60
	2020年4月	2020年7月	2020年10月																				
LVDd (mm)	72	70	70																				
LVDs (mm)	60	58	57																				
EF (%)	28	30	30																				
体重 (kg)	62	59	60																				
他職との連携	医師に心エコー所見悪化の際には、直ちに連絡する体制を取っている。また主治医に管理栄養士への栄養食事指導（摂取エネルギー量と水分摂取量を中心に）の指示を依頼している。																						
評価、考察、 課題等	心臓超音波検査施行時に患者と普段の体重の変化や労作時の症状など聞きながら検査した。症状への訴えはなかったが体重の管理はほとんどしていないとのことだった。検査当日は体重は60 kg。自己にて心不全の管理がなかなか難しく、心不全での入院歴もあり、体重の増減や食塩・水分摂取量の管理なども必要であることを説明。また、心不全が慢性腎臓病を悪化させたり、逆に腎機能低下により心不全が増悪することも説明。心不全へ進行しないよう引き続き心電図・心臓超音波検査と併せ血圧管理、血液検査での腎機能、BNPの経過観察が重要と思われた。また、検査時の聞き取り内容からも普段の生活でも意識してもらえるように、また具体的な食事のチェックをするように働きかけることが必要と思われた。（字数326）																						